

# 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 21年 4月 23日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0790300016		
法人名	株式会社ジェイバック		
事業所名	(グループホーム) もも太郎さん (谷田川)		
所在地	福島県郡山市田村町谷田川字表前58-1 (電話) 024-955-5628		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆうビル302号室		
訪問調査日	平成21年3月16日	評価確定日	平成21年5月7日

【情報提供票より】(平成 21年 2月 24日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 11月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	8人	常勤 8人, 非常勤 1人, 常勤換算	7人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての ~ 2階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000円	その他の経費(月額)	18,000円
敷金	有( )円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	400円	昼食 400円
	夕食	400円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要

利用者人数	9名	男性 4名	女性 5名
要介護1	3名	要介護2	4名
要介護3	1名	要介護4	名
要介護5	1名	要支援2	名
年齢	平均 80歳	最低 59歳	最高 94歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	岡沼内科・とみざわ歯科
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道49号線沿いの山間地にある小規模多機能型居宅介護と併設されている事業所である。2階部分が共有空間と居室になっており、日当たりも良く自然環境に恵まれている。リビングは自然の光を取り入れる採光窓があり、家庭での生活環境を思わせるようなクローゼットなどの生活用具が配置され、馴染みの生活空間となっており、家族宿泊室も準備されている。また、近くの小学校との交流を深めたり、地域のリサイクル運動に参加するなど地域連携を重視した運営に努めている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 昨年までは、事業所独自の理念が作成されていなかったが、法人の理念に掲げている「自由」と地域密着型サービスの役割を反映した理念を作成し、地域との交流に取り組み、改善に努めている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は、職員が分担して行い管理者と共にまとめた。これまでのサービスを振り返る良い機会となり、あいさつや言葉使いについて、話し合いがされている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5) 昨年の運営推進会議の開催は3回であった。事業所には運営推進会議の意義と機能を理解され、適正な事業運営に向けた取り組みを期待する。今後は、2ヶ月に1回の定期的な開催となるよう努めて欲しい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 事業所の健全な運営を目的とした運営委員会(入居者家族の会)を設置し、事業所運営のモニター役の機能を果たしてもらっている。また、意見等が言いづらい家族のために、居室に連絡帳を設置し、やりとりをしている。コメントを書くことにより、不安の解消になっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近くの小学校の子供達が事業所を訪れ、歌・踊りなどを披露する交流が行われている。敬老会やリサイクル運動・ゴミ拾い等にも参加し、地域との交流を深めている。また、事業所には「介護何でも相談」の担当部門が設置され、地域の方々の相談を受けることができるようになっている。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念「自由」「家族の絆」を習字で書き、額に入れて掲示してある。事業所の理念は、これを具体化し「自由を尊重し地域で生活できるよう支援いたします。」としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	習字の時間には、法人理念である「自由」「家族の絆」を利用者と共に行ったり、職員間でも常に意識して実践に向けて取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入り、段ボールのリサイクル活動に協力したり、ゴミ拾いや敬老会などにも積極的に参加している。また、近くの小学校から全校生徒(12~3名)で遊びに来たりと、地元の人々との交流にも努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日々のケアについて振り返る良い機会となっている。職員の言葉使いや挨拶の徹底などが、話し合わせ、サービスの質の向上に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を行う取り組みはされているものの、定期的な開催とはなっていない。	○	会議メンバーも決まり、今後は定期的に会議が行われる状態になったため今後に期待する。
6	9				
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	新聞を作成し、利用者の写真を同封し、行事や暮らしぶり、金銭出納に関する報告を郵送している。健康については、通院時にその都度電話をかけ、訪問時にも報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	民生委員の方が苦情担当者となっており、家族の意見などを表せるようになってきている。また、面会時に、職員が聞き取りにあたっているが、これまでは出された意見は特にない。家族が意見を述べやすいように、利用者の部屋に連絡帳を置いている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者に配慮し、異動や離職が最小限に抑えられるよう、職員間で話し合いがされている。やむを得ず離職があった場合は、新任職員とマンツーマンで1ヶ月程度、ベテランの職員が業務に当たることとしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修は法人の教育委員会が行う研修を受ける事となっている。外部研修については、グループホーム連絡協議会に加入し、研修情報を掲示したり、個人が受けた研修がある場合は、その都度受けることができるようになっている。研修後は伝達講習制度があり、報告発表して共有に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の際には、積極的に交流に努め、自分たちの疑問などを同業者との交流の中で情報交換している。徘徊にはどう対応しているのかなどを質問し、「飽きるまでつきあうよ」と聞いて解決の糸口をつかむ機会になっている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除の際に酢を使うと汚れがおちる事、灰汁抜きの仕方など学んだことがたくさんあり、「ありがとう」と感謝の言葉を伝えている。協力をしてもらったり、指導してもらったりと、利用者と共に支え合う関係で支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望を朝起きたときや、お茶の時間に過ごし方を聞いている。困難な場合は、タイミングを見たり、仕草や表情を見たり、流れの中からつかむように努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は、ミーティングで自由に意見を述べ、利用者や家族の思いを基に通院時の医師の意見などを参考にして、よりよく暮らすための介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた見直しを行っている。また、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、その都度必要な関係者の意見を求めたりして、現状に即した介護計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。職員が同行する場合も家族が同行する場合も受診結果は報告し合い情報を共有している。家族が受診に同行する際は、利用者の状況を詳しく説明し受診に備えている。又、協力医療機関の他に毎月2回往診に来てくれるかかりつけ医が確保されており、家族の安心に繋がっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、利用者、家族、事業所、かかりつけ医で話し合いが行われ、利用者、家族の意向が取り入れられている。また、事業所の対応指針も家族に示され同意を得ている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者を尊重し、プライドを傷つけないような声かけを行っており、語調も丁寧で柔らかい。個人情報を含む書類等は施錠できるロッカーに保管している。また、職員も個人情報に関わる誓約書を採用時に取り交わしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムに配慮して外出や入浴なども出来る限り希望に沿って柔軟に対応している。利用者との会話や表情、仕草から利用者の希望を把握し、その人らしい暮らしが出来る様に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は職員が利用者の好みを聞きながら作り、季節感を取り入れる等、工夫された献立となっている。また、誕生日を迎えた利用者にはそのお祝いとして、本人の希望する食事が提供されることになっている。職員も同じテーブルで食事をし、明るく、さり気ないサポートが行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、朝風呂に毎日入る利用者を含め毎日入浴する利用者が半数近く占めている。週平均1人当たり3～4回の入浴が記録されている。なかには、入浴を拒否する利用者もいるが、その場合は、下着の交換や清拭での対応をしている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者の生活歴を活かし、畑仕事・洗濯物たたみ・わらじ作り・正月用のしめ縄作り・日めくりカレンダー作り・お天気表作りと利用者の役割作りがされている。また、書道の有段者には、理念などを書いてもらい額に入れて掲示している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	日常的には利用者の希望に合わせて散歩、食材や個人の買い物等の外出が行われている。その他季節毎に、お花見、春の息吹を感じるドライブ、足湯つかりドライブ、紅葉狩り、地区祭り参加等で外出支援をしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所の出入り口、非常口にオートロック式鍵が掛けられている。理由は、事業所が2階にある為、階段からの転落防止のためと、建物が国道に面しているため、利用者の安全を守るため止む無く施錠しているとのことである。	○	鍵を掛ける事により利用者にもたらす心理的な不安・閉塞感等を認識し、近所の人々にも見守り、声掛け、連絡をしてもらえる協力関係を築き、鍵を掛けない支援が出来るように取り組んで欲しい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は昨年の10月と今年の2月に計2回行われている。内1回(10月)は夜間想定で近隣の住民にも参加をしてもらって行われている。非常階段には幅60cm位の滑り板が備え付けられており、迅速な避難を促す備えとなっている。ただ残念な事に前回評価でも指摘されていた災害に備えた備蓄がされていない。	○	災害時に備えた食料品、飲料水等の備蓄を整備される事と、災害の発生に備え、通報訓練や連絡網の確認は大掛かりな避難訓練とは別に慣れる為の訓練を繰り返し行っておく事が望まれる。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事及び水分摂取量は全ての入居者について毎日チェック表に記録されている。献立に関しては利用者1人ひとりの嗜好に配慮されて作成されている。また、体重測定も毎月行われており、体調管理に注意が払われている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の居間、食堂は窓も大きく、天井に採光窓がある為に明るい。また、温度も適切になるように調整されていて利用者は快適に過ごしている。ソファのスペース、畳のスペースで利用者が思い思いに過ごしている。壁には利用者の書道や大きな日めくりカレンダー、食事のメニュー、理念などが掲示されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は何時でも、家族が泊まれるように広いスペースが確保されている。各部屋ともエアコン、加湿器、テレビ、ロッカー、ベットが備え付けられていて、そこに利用者が必要な使い慣れた馴染みの品々を持ち込み居心地良く過ごしている。		

※  は、重点項目。



### 3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 (グループホーム)  
もも太郎さん(谷田川)

記入担当者名 柳澤 富子

#### 評価結果に対する事業所の意見

特になし

#### 評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。